

町田市生涯学習センター運営協議会委員、
まちだ市民大学HATSプログラム委員の打合せ

〔日 時〕 2022年11月25日（金） 9：30～11：00

〔場 所〕 町田市生涯学習センター 7階ホール

〔出席者〕 生涯学習センター運営協議会委員：古里 貴士、堂前 雅史（環境プログラム委員を兼務）、西澤 正彦

市民大学プログラム委員：伊東 暢雄（人間科学）、井上 廣美（福祉）

小島 政孝（歴史）、藤岡 昭子（健康）

事務局：西久保センター長、平林担当課長、瀧澤事業係長、菊島主任

〔内 容〕 市民大学事業の見直しについて

B委員：ことぶき大学と市民大学の見分けがつかないとは思っていない。市民大学は町田市への学習還元を目的としていた。受講人数を増やそうとし、ボランティア志向ではない人も受け入れたので、内容がぼやけてしまった。市民大学のあり方を考えるのであれば、学習成果の還元ということに狙いを絞るようにしないとうまくいかないのではないかと。

C委員：ことぶき大学と市民大学は、主旨と成立過程が異なっており、一緒に論じるべきではないと思う。市民大学とことぶき大学を統合して、高齢者の切り捨てとみられないかと懸念する。市民大学とことぶき大学は別々に見直すべきである。生涯学習センターは、気付きや学びを与える場所として高齢者、また女性に学びやきっかけの場所を確保する場所として必要だ。ことぶき大学の名称は変わっても構わないと思っているが、高齢者の学びを保証する必要がある。デジタル講座などは若い人とは一緒に学べない。改革はしないといけないので結果は同じかもしれないが、そのような感じを受ける。

A委員：プログラム委員の皆さんがどんな課題を感じているのか、改善したいところをお聞きしたいと思っていた。行政が考える課題とは違う部分があると思う。生涯学習の場は市民のものであり、生涯学習センターは市民のものである、市民の考えが優先されるべきものだと思う。受益者負担の導入についてだが、まなびのすそ野を広げる課題をセンターとして出しているが、一方で受益者負担があり、実費負担は必要だが有償化が進んでいくことに危機感を感じる。経済的に豊かでない人の学びの場を保障しないといけない。社会教育の場に来る人で明確に目的が分っていない人が、それなりにいるので無償でそれが得られることは大事である。可能な限りハードルは下げておきたい、受益者負担についてどう舵をとるか慎重さと検討が必要。

G委員：10年前に越してきて、町田の事を知ろうと思って、歴史、環境、健康と学んでき

た。受講してみると、複数の講座を受講している方が多くいるが、興味のある人は限られる。底辺が増えるといいなと思う。開催時間帯のこともあるので、若い人が入るのは難しいが、若い人と話せるのは良いし、入ってくれたらいいなと思う。これから老人が増えるので、そのあたりも考えなくてはならないため、どれが悪いのか良いのか判断はつかない。

D 委員：10 年以上市民大学を受けているが見直しと言うと、どれをつぶすのかという話かと思う。ことぶき大学はお年寄りが豊かな人生を送るために、快適に過ごせる良さがある。市民大学受講者の多くは、定年で辞めてまだまだ学びたい人が来ている。それぞれは別のものだと思う。町田市は見直しと言うと、建物を建ててお金を使うが、講師のお金はとても安いので、講座の質と講師謝礼を高くしてほしい。

F 委員：市民大学が始まってからプログラム委員をしている。最近感じていることは、講座の回数が減り、予算が少ないので予算がかからない市の職員に講師をしてもらっていることはお粗末である。市民大学のいいところは「町田市の地域課題や特性を盛り込んだプログラムにする」ところである。文化は経済が苦しくても必要なもので、予算はつけなくてはならないし、市民大学も大事である。受益者負担は、自分が勉強するのに、お金を払ってきちんと勉強するのが当たり前で、割合の問題だと思う。ことぶき大学とは受講者の年齢は変わらないと思う。歴史の講座は 8~10 回で、日曜にやったことがあるが、曜日や時間帯を変えても受講者層は変わらなかった。市民大学の必要性を根本的に変える必要は無いと思う。定年退職して時間のある人が来るので、高齢化してしまうのは仕方ない。Zoom でも講座をやったが、来られない方が参加できるので、zoom の活用はもっとやってみたら良いと思う。

E 委員：車いすの方の送迎の事業を行っているが、障がい者は「生きること」を中心に日々の生活が回っている。生涯学習センターにくる方は生きことを楽しんでいる。今は福祉の中身が細分化され、誰でも見えるようになっている。制度の仕組みを学ぶ講座をやると人が来る。プログラムを作る時、今一番必要なことは何かということで内容が変わっていく。障がい者の人数は何千人といるのに、障がい者青年学級は百何人しか受講できない。受講できていない、見えない人への支援を考えなくてはならない。以前は「協働」が主流であり、組織同士でやりましょうであったが、今は共生社会、個別に個人同士でやりましょうと変わってきている。市民大学では、共生社会の理解を深められるように、仕組みやどうやって生きるかというプログラムを提供するようにしている。夜間でやると来るメンバーは同じになることが多いが、知りたい、学びというのはそういう方なのかと理解している。今回の会議は結論ありきではなく、意見を言わせていただく機会があったのでよいと思う。

C 委員：市民大学はH A T S の領域が決まっているので、長期化しマンネリ化しているのかなと思っている。他の視点があってもよいのではないか。町田市は人口が増え、転入者が多くいるので、歴史や町田の魅力をもっと町田市民に知ってほしい。先を見据えて、講座を作るには、色々な組織と連携が必要だと思う。例えば、現役世代のリカレントが流行ったが、今はリスキリングと言われている。仕事がデジタル化されて、自分の仕事がなくなってしまった方もいるので、その人たちがデジタル社会で生きていくための講座を商工会議所とコラボレーションもありだと思う。もう少し幅広く考えて良いのではないか。市民大学が知識だけだと民間のカルチャーセンターと競合するのか。

B 委員：市民大学事業はそもそも、生涯学習という枠でスタートしていない。町田の中で課題解決に対応する人材育成が目的であり、社会教育の片隅で始まった。当初は様々な行政組織との連携を目指していた。行政の組織として置きどころが無く、10 年くらい前に生涯学習センター事業に位置付けられた。市民大学は広い学びを保証する公民館事業のスタンスとは違う。行政との連携が上手くいかなくて生涯学習センターの事業になったと思っている。当時は協働がテーマで、組織的に行政と市民が協働することがテーマだった。受益者はだれなのか、必ずしも受講生が受益者ではない。市民大学の原点に返れば、受益者は市であり、市民である。受講した方が、あなた一人の財産では無くて、市民全体の財産ですと言う自覚を持つような仕組みにしていかなければならない。市民大学とことぶき大学は目的が違うので一緒にするのは無理がある。多少のお引越しはあるとしても、看板は違えておいた方が良いと思う。